



★W杯ラグビーが熱い！

これからの日本を背負う高校生たち

去る1月8日に行われた平成最後の全国高校大会は、惜しくも決勝戦にて、桐蔭学園が逆転を喫して惜敗しました。誠に残念でしたが、多くの感動を呼んだ好ゲームでしたね。

ところで平成の30年間を振り返ってみましたら、10年ごとにいろいろな特色があることが分かります。まず平成元年からの10年間は、群雄割拠の時代で毎年優勝校が入れ替わる年代でした。また公立高校の検討も目立ちます。

ところが平成11年以降は、西日本の高校しか優勝経験は無く、それも大阪、京都、福岡に所在する高校に限定されます。平成20年までの10年間で、啓光学園が4連覇の偉業を達成しました。さらに平成21年以降は、東福岡5勝、東海大仰星3勝と、この名門校が突出して実力を発揮しております。

平成22年は、東福岡と桐蔭学園が引き分け同時優勝した年もありましたね。こうした数々のドラマを作って、平成の幕が閉じようとしております。今回、大阪桐蔭が初優勝を飾りました。さて新たな元号になるこれからの10年間、どのような足跡を残してくれるのでしょうか…。日本を背負ってくれる若人の躍進を、大いに期待しましょう！

【平成30年間の高校ラグビー優勝校】

高校名	公・私立	所在地	回数	平成の年度
啓光学園	私立	大阪	7	平成 3、10、13、14、15、16、20
東福岡	私立	福岡	6	平成 19、21、22、23、26、28
東海大仰星	私立	大阪	5	平成 11、18、25、27、29
伏見工業	公立	京都	3	平成 4、12、17
相模台工業	公立	神奈川	2	平成 5、6
大阪工大高	私立	大阪	2	平成 7、24

今月の

水戸まさし応援団

「春を待つ」

節分は季節の移り変わる時という意味で、冬と春の分岐点となる。節分の翌日が立春だ。

冬の最中に立春の日を置き、少なくとも暦の上では春が来たものと想定する。本格的な冬の寒さの中でも、経過的な春の前ぶれとして捉えてみせる、処世上の知恵であるという。

将棋界で数々の記録を塗り替えている藤井聡太七段。そのインタビュで「先を読む力」について「答えのない序中盤では最初に適切な目標設定する事」が重要と指摘する。

おりしも選挙イヤの今年、夏の参議院選では衆参同時選挙ともささやかれている。地域に寄り添い、ボランティア活動に精力的に取り組みながら、復帰を目指す水戸さん。

今は、東北東に向かって恵方巻きを食べながら春を待つ心境ではないだろうかと思った。

水戸まさし応援団
Mチーム 益田 正廣

◆事務所

〒245-0008

横浜市泉区弥生台26-6

TEL: 045-814-3001 FAX: 045-814-3007

メール: kickoff310@gmail.com

◆HP: <https://www.kickoff310.com/>

◆Face Book: 「水戸将史」で検索

◆Twitter: @mito_kickoff

◆メルマガ: 登録はHPから